

最  
中  
の

脱  
出

In the Midst of Escape

村上由規乃

カワシママリノ

みかんとイルカ

監督 黒川幸則

詩と日記 山中千瀬

「脱出の最中」「夢日記」より



「女の子たち、命のはじっこを歩いてる」—— 平岡直子（歌人）

プロデューサー・黒川由美子 平英之

原案・脚本・山中千瀬 岡田亞弓 撮影・村上拓也 録音・助監督・青石太郎 現場音楽・のっぽのグーニー

音響・黄永昌 編集・渡辺純子 黒川幸則 制作・山崎睦美 新谷和輝 摄影助手・藤田恵実 グレーディング・山田祐太

8ミリ映像協力・SPICE FILMS（石川亮）後藤貴志 南俊輔 口ケ協力・川口屋（川口友美）熱海シネマ

画集・qp「明るさ」 タイトル制作・佐クマサトシ 英語字幕制作・Primo Vere 宣伝美術・funnimal manufacture

製作・配給・キノコヤ映画 Primo Vere 2025年/40分/カラー&モノクロ/ヨーロピアンビスタ/ステレオ ©キノコヤ映画 ©Primo Vere

# レモンティーの飲むやりかたをわからんまま 生活でした。

STORY

妹のさきちゃん（村上由規乃）は海辺を歩き流木を集めながら、姉のぐーちゃん（カワシママリノ）のことを思い出していた。姉は故郷を離れ都会で暮らしているが、单调な毎日に生きる意味を見失っていた。ある日突然、妹は姉に電話をかける。

「海 行かん？」姉は音信不通だった妹からの連絡に驚くが、ふたりは故郷ではない海辺で会うことにする。

かつて一緒に読んだ一編の詩が、共通の記憶と感情を呼び覚ますきっかけとなつた。

記憶と夢が混ざり合い、現実と想像が絡み合う世界で、

姉妹は新たな「脱出」の旅を始める。



Message from the Director

精神疾患のケアの本で読んだ「あなたが私のことを記憶していなければ私は存在しない」という言葉があります。さきちゃんが詩を暗誦することで映画に登場する（存在する）くーちゃん／くーちゃんが夢日記に書くことで存在できるさきちゃん。ふたりのコトバの断片は映像を離れて海の波に乗るようにして届きます。かつてふたりが共有していた詩と夢のイメージが重なり合った時、記憶の中でふたりは束の間出会い直すのかもしません。

黒川幸則

## INTRODUCTION

本作は、日本映画界の辺境でマイペースに作品を作り続ける黒川幸則監督（『にわのすなば GARDENSANDBOX』）、東京郊外で映画の上映やシネクラブを続けるキノコヤの黒川由美子プロデューサー、第一歌集「死なない猫を継ぐ」で注目を集め歌人の山中千瀬、そして彼女の友人で同じく歌人の平英之との出会いからスタートします。2021年、平の呼びかけにより山中千瀬脚本・黒川幸則監督による映画制作のプロジェクトが立ち上りました。絶余曲折を経て実現が困難に思われる時もありましたが、ふたりのお互いの作品へのリスペクトが完成に辿り着かせてくれました。

山中が以前に発表した詩「脱出の最中」をタイトルにして書かれたオリジナル脚本に、彼女の創作「夢日記」からの引用を加えて、映画と言葉のコラボレーションを試みています。

この映画には、時間と場所における非同期的な言葉、あるいは物理的な実体を持たない言葉が数多く登場します。『にわのすなば』でも共演した村上由規乃（『猫を放つ』『オーガスト・マイ・ヘン』）とカワシママリノ（『ふゅうするさかいめ』）が演じる姉妹の再会の物語を、〈断片化された言葉〉と〈身体〉の再会のメタファーとして捉え、人と人との時間と場所を再び共有することの、新たな感覚を探ります。

2025年11月29日(土)より12月5日(金)  
ポレポレ東中野にて上映!

（上映時間）40分 （料金）一般 1300円 ※詳細は劇場HPにてご確認ください。

